

令和4年度第1回 岐阜県生涯学習審議会 議事録

日 時	令和4年7月26日（火） 14:00～15:30
場 所	岐阜県議会東棟2階 第2面会室
出席者	<p><委員> 11名（欠席委員2名） 浅野委員、奥村委員、菊本委員、後藤委員、小林委員、小山委員、土屋委員、丹羽委員、福田委員、米原委員、若岡委員</p> <p><県> 5名 渡辺環境生活部長、山田環境生活政策課長、石井環境生活政策課生涯学習企画監、野村環境生活政策課生涯学習係長、高井環境生活政策課課長補佐</p>

会議の概要	
1	開会
2	<p>挨拶 （渡辺環境生活部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生涯学習振興指針」の改定について丁寧にご審議いただいている。 ・コロナ禍における学びのためのICTの活用、誰一人取り残されない社会の実現のため、高齢者や障がい者などあらゆる方々の生涯学習の推進など、委員の皆様のご意見を踏まえた施策となっている。 ・本日は、2月の審議会以降、庁内や市町村の意見照会の結果を踏まえ、まとめた指針案について委員の皆様の忌憚のないご意見・ご助言をいただきたい。
3	<p>会長挨拶 （丹羽会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日は、「生涯学習振興指針」の最終案を審議する。委員の皆様からはそれぞれのお立場、ご経験からご意見を賜りたい。
4	<p>報告 （1）令和4年度 主な事業と進捗について 事務局による説明を行った。 また、以下のとおり発言があった。</p> <p>（小山委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的は何か。事業の全体像を教えてください。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぎふ地域学校協働活動センター事業は岐阜大学と連携し、人材育成を目的として行っている。地域と学校をつなぐ人材育成、子どもたちを核とした地域活性化活動である地域学校協働活動を推進する人材育成を行っている。また、次年度にはフォローアップ研修も行い、継続的な支援を行っている。さらに、学生ボランティアの募集を行い、学生にも地域活動に参画してもらい、学生を通じた地域のつながりをつくる取組をしている。また、長期プログラムにより、市町村を長期的に支援していく体制を整えている。 ・家庭教育に関しては、支援が届かない家庭への支援を目的に行っている。家庭教育支援市町村連携会議は、基礎自治体となる市町村同士が連携を図ることによって、相乗効果を生み出すことや、先進事例を学ぶことをバックアップしている。 <p>（小山委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業の効果をどのように評価しているのか。

(事務局)

- ・各事業において、アンケートにより振り返りを行っている。いただいた意見をもとに、次のように取り組んでいくのか検討し生かすようにしている。

(小山委員)

- ・アンケートだけではわからない。何ができるようになったのか、目指す姿があるのなら、どの程度進んでいるのか、市町村の現状をみて判断してほしい。

(丹羽会長)

- ・生涯学習の考え方はそれぞれあるが、県としては、指針にあるとおり「地域づくり型生涯学習」を推進している。「地域づくり型生涯学習」は個人の学びを地域課題解決に生かし地域活性化につなげることであり、この理念に基づいて県の事業が組み立てられている。

(奥村委員)

- ・課題を解決する過程は、長期スパンの事業計画を考えてほしい。単年度であると、課題は浮き彫りにはなるが、解決のスピードは、地域により異なる。人材の掘り起こしをする一方、県民一人ひとりが地域の居場所を創り上げることができるよう、双方の舵を取っていくことが必要になるのではないかと。
- ・環境生活政策課であるので環境問題と連携していったほうがよいのではないかと。課題を地域で考えることも大切だが、県として取り組む課題があってもよいのではないかと。

(事務局)

- ・ぎふ地域学校協働センター事業は長期スパンの事業である。立ち上げから、継続的に支援を行い、ほとんどの市町村がこの研修を行っている。長期支援、フォローアップ研修だけでなく、教員向けの研修を行うなど、研修メニューに関しても充実させ、長期的なスパンに立って、事業計画を立てている。
- ・生涯学習分野は環境だけでなく様々な部局と連携している。引き続き取り組んでまいりたい。

(小林委員)

- ・環境問題でも地域性が重視されている。
- ・生涯学習は捉える人によって違う。また、SDGsも捉える人によって違う。SDGs一つを捉えても、説明が大変難しい。捉え方は様々であるが、ここで学ぶべきことをある程度定義するとよいのではないかと。図がないと捉え方が曖昧になってしまう。「SDGsによる地域づくり」というが、教える側としては説明するのに迷う。SDGsの前文を入れたらよいのではないかと。SDGsを教えるのはやはり生涯学習である。環境は様々なアプローチがあるので、生活系、自然系など、個々にアドバイスも変わると思うので、余計に捉えづらい。

(米原委員)

- ・継続的な取組やこれから強化していくための方向性を示すものが、この後協議する指針であり、今後数年かけて推進していくものである。

(丹羽会長)

- ・この指針に基づいて事業を展開していくこととなる。

(後藤委員)

- ・「地域づくり型生涯学習」に基づく事業展開はまだ歴史が浅く、県民への理解が浸透していない。事業報告をみると、指導者の育成を大切にしていることがわかる。ぜひこれを毎年続けてもらいたい。課題としては、市町村担当者やコミュニティ・スクールのメンバーも2～3年経つと変わってしまうので、また振り出しに戻ってしまうこと、また、具体的なことがわからず研修を受けていることもあるのではないかと。今後は、どのような具体的な地域づくり活動が行われているかの報告や意見交換を行い、現場に近づけた事業展開が要求される。

(小山委員)

- ・育成した人材をベースにしたネットワーク化の構想はあるか。

(事務局)

- ・現状は組織的には行われていないが、フォローアップ研修等を通して個々のつながりができている。

(小山委員)

- ・防災に関しては、げんさい未来塾において、メーリングリストやフェイスブックなどでつながっている。人とのつながりによって、一人ではできないこともできるようになる。そして、さらに人とのつながりが広がっていく。生涯学習においてもこのようなことができるとよい。

(事務局)

- ・社会教育士のネットワーク化を進めているところである。

(小林委員)

- ・「岐阜県生涯学習コーディネーター」の資格をとったが、現在フォローアップがないので、うまく活用してはどうか。活動したい人はたくさんいる。県の他部局の資格をリストアップするなど、今ある人材を活かすことができるようネットワーク化すると広がりのある活動ができるのではないか。

(小山委員)

- ・げんさい未来塾では、活動したい人の名簿を作成し情報共有している。県においても生かせる能力をもった人材をリスト化して共有できるとよい。

(小林委員)

- ・名簿の共有など人材を活用できる体制を構築していただきたい。

(事務局)

- ・まずはそれぞれの部局でネットワーク化が図られているか確認する。
- ・岐阜県生涯学習コーディネーターについては、生涯学習・社会教育総合推進研修会の案内を毎年しており、研修の場を設けている。

(丹羽会長)

- ・他にご意見はあるか。なければ議事に移らせていただく。

5 議事

(1) 岐阜県生涯学習振興指針の改訂について

事務局による以下の説明を行った。

- ・前回いただいた委員の皆さまの意見を反映させていただいた。
- ・その後、市町村及び庁内各課の意見を反映させ県民意見募集を行った。
- ・今回は、前回からの修正点を説明させていただく。
- ・SDGs目標17の「パートナーシップで目標を達成しよう」を連携という視点から追加した。
- ・家庭教育についての内容を「家庭教育『生涯学習』」の中に追加した。
- ・その他、文言の修正、グラフや数値の時点修正など軽微な変更を行った。

また以下のとおり発言があった。

(菊本委員)

- ・コミュニティ診断士の育成に関わっている。
- ・地域の課題としてよく耳にするのは、地域の人材が不足しているということである。社会全体が人口減少の局面に入っており、人材をどのように掘り起こすか、どのように活用していくかを生涯学習を通して実現していこうということだが、根本的なところにメスを入れることが難しい。今までも人材育成は多様な分野でされている。県民の方も、複数の資格をもっている方が地域にはたくさんいる。部局内のネットワークや部局をまたいだプラットフォームを作っていくことをうたっていくべきである。

(丹羽会長)

- ・新指針は、地域課題解決のためにどうしたらよいかという具体的な方向を示す指針になっている。地域づくりを進めていく中で、人材のプラットフォームが必要であるなどの課題が見えてきた。その方向性は一致してきており、より具体的な課題に則した指針となっている。

(奥村委員)

- ・指針は誰が対象なのか。対象が、行政や図書館・公民館などの社会教育施設になっている。実際に地域づくりを実践している個人が見るものになってはならないところが残念である。個人がもっている可能性やビジョン、モチベーションを上げるために、個人ができることを記載してくださっているが、居場所に参加する、地域の貴重な人材である、そのために何をしたいのかというきっかけがもっと出てくると、人材のプラットフォームにつながっていくのではないか。指針の書き方として、誰が手に取って、誰の力が出るものになっているかは書き方にもよるのではないか。個人が手に取って、個人のパワーを引き出し、実現できるものになっているとおもしろいのではないか。行政目線の書き方で、施策の一つとして提案されているので、個人に対するものではないが、そういったところの魅力づくりや提言の出し方など一人ひとりに訴えかけるものであってほしい。

(丹羽会長)

- ・生涯学習の捉え方が難しい。各地域にキーパーソンとなる方がおり、コーディネートしていく必要がある。地域を動かしていく方がこの指針をもとに進めていくことになる。

(後藤委員)

- ・防災士の資格取得の際、具体例が多く示されており、具体的な内容を学ぶと関心を持つことができ、実践につながることを実感した。
- ・指針はあくまで、行政向けのものである。現場の市民向けの具体例の解説書的なものは各地域で作るとわかりやすいのではないか。

(小山委員)

- ・防災教育に関して、小中学校の各科目の中で取り入れて実践していこうとする取組をしているが、実践事例集を作成している。同じようなイメージで、実践事例集があると共有でき、引出しが広がる。

(福田委員)

- ・横のつながりが課題である。地域で活動をしていると、活動している人の中では人材を把握しているが、形にはなっていない。形にすることは大変であるが、市町村単位で行うとやりやすいし、それぞれの課題に応じたものになるのではないか。それをまとめると県になるのではないか地域で活動している人は、それぞれの地域のことを考えて活動しているので、なかなか県のことまで考えられないのが現状である。
- ・確かに指針は行政向けであるが、担当者は2～3年で変わるので、どう引き継がれていくのが課題である。結局は人である。
- ・また、行政が引っ張っていくものではなく、地域の人たちが自ら動いていくものである。それを行政がまとめる役割を担うことが望ましい。地域の人が自分たちの役割がわかる内容となっているとよい。例えば、ボランティアをやっている地域の人たちは、自分たちの行っている活動が生涯学習であるという認識はないが、実際には地域づくりになっているし、子どもを育てていただいている活動となっているので、それが生涯学習であるということが伝わる内容となっているとよい。

(若岡委員)

- ・パブリックコメント0件というのは県民の関心が低いのではないか。生涯学習が県民までおりていないと感じる。県のHPを充実させていくなど情報発信の部分に力を入れていくと、県民におりていくのではないか。

(事務局)

- ・パブリックコメントは、他の事業でも数件あるかないかである。市町村や庁内関係課に照会をかけており、意見聴取している。指針を具現化していくためには、市町村の協力を得なければならない。県の指針をもとに、市町村においても各々指針・計画を作成している。
- ・生涯学習は、国民一人一人の自発的な学びであるので、指針により県や市町村が強制的に推進することになってしまってはいけない。人生100年時代の学びを継続していくことの大切さをメッセージとして伝えていければと考えている。

(小山委員)

- ・生涯学習の言葉のイメージが、カルチャースクールなどの学びとなっているので、自分には関係ないと考えている人が多いのではないか。すべてが学びである。生涯学習の言葉のイメージと実態とのギャップがあり、生涯学習の理解が得られていない。
- ・いろんな言葉で網をかけていくことも必要なのではないか。
- ・防災教育も学びであり、地域の人と進めていくものであると考えている。まさに、生涯学習であるが、言葉としては防災教育と生涯学習が繋がっておらず、分けて考えられてしまっている。他領域でも「学び」がすべて生涯学習であるとの認識となるとよい。

(丹羽会長)

- ・県としては大きな方向性だけを示しているが、各市町村単位となれば、このような議論になってくるのではないか。県の指針に則って各市町村で地域の課題解決につなげていってもらえるとよい。

(土屋委員)

- ・新聞を学校教育の中で活用してもらおうNIEの取組をしているが、成人年齢が18歳に引き下げられたことにより、新聞を読む機会を取り入れる学校が増えた。新聞を読んだことがない生徒には新聞の読み方から教えられている。生涯学習においても継続的に進めるとのことであったので、いきなり始めるのではなく、少しずつ無理なく継続的に進めていけたらよい

のではないか。

(後藤委員)

- ・地域のまちづくり団体に所属しており、子どもたちに対して話す機会がある。子どもたちは大変反応がよい。目を輝かせて、多くの質問をしてくれる。地域理解・地域参画は将来を担う子どもたちを育成するためには大切であると実感する。
- ・生涯学習という言葉は、行政用語であり一般市民になかなか理解が得られていない。地域を知って、地域に参画しようという呼びかけならば多くの人が集まる。行政の方針としては指針の通りでよいが、実践している方には、違うアプローチで、事例集などで具体的に実践を伝えていくのがよいのではないか。
- ・NPOという表現は、NPO法人のみか市民団体も含めた広義の意味か明確にわかるとよい。

(浅野委員)

- ・生涯学習という言葉の理解がまだまだ一般には浸透していない。生涯にわたっての学びを一般にも広げていくことが課題である。どのようにその機会を積極的に作っていけるか考えると、学校でもっとわかりやすく広めていけるとよい。若い世代にも自分たちの課題として入っていくのではないか。指針の中に学校の役割も位置づいているので、学校教育の中で位置づけられるように働きかけをしてもらいたい。

(丹羽会長)

- ・人生100年時代ですますます生涯学習の重要性が問われていると感じる。

(米原委員)

- ・SDGsが盛り込まれて、わかりやすい指針となったと感じる。
- ・指針があることで、ときどき立ち返って振り返えることができ、よいと思う。

(丹羽会長)

- ・様々な意見をいただいたが、基本的にこの方向性でよろしいか。
- ・この指針は「清流の国ぎふ創生総合戦略」に紐づいて策定されているが、今年度見直しが行われている。大きな方向性の変更はないと考えられるが、最終的な指針の見直しを事務局とさせていただく。最終調整については会長一任でよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(事務局)

本日いただいた意見をもとに、引き続き生涯学習の推進に努めてまいります。

(以上)